

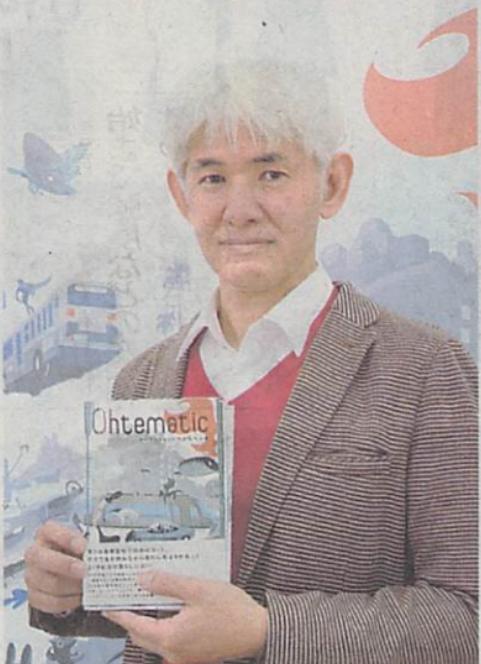
4日開かれる「鹿児島マラソン」のポスターのイラストレーションを手掛ける。初開催から3年連続で担当、公式焼酎や水のラベルにも使われ、ランナーならずとも目に見える機会が多い。明治維新150周年記念の今年は、さわやかな自然の中を西郷隆盛らが駆け抜けたるイメージとなつた。

マラソンばかりではなく、テレビや広告、ウェブなど活躍の場が多岐にわたる理由を「デッサンで磨いた空間表現やデザインとの親和性の高さでは」と自己分析する。観

鹿児島マラソンのポスターのイラストを手掛ける

おてら
大寺 さとし 聰さん

かお



光面の発信力も評価され、2017年度県芸術文化奨励賞に選ばれた。日置市生まれ、東京育ち。武蔵野美術大学空間演出デザイン学科卒業後、イラストレーターとして東京を拠点にしていたが、2000年に父

の故郷・吹上に移住。デジタル技術と自然との共生を題材にした創作にも力を入れる。「自分の世界観をさまざまなメディアを通して展開したい」霧島アートの森(湧水町)で個展を開催中で、経済一辺倒の社会や都市

の部への一極集中に警鐘を鳴らす物語仕立ての作品が目を引く。「イラストレーションはイルミネーション」と語る。暗がりに光を当て、ショントと語源が同じという。暗がりに光を当て、社会問題を分かりやすく伝える役割がある」と語る。個展と同時に、鹿児島大学の井原慶一郎教授と初の作品集も刊行。「もつといろいろな面白いことに挑戦したい」

日置市吹上町永吉に母と妻、3人の息子と暮らす。土曜朝に地域住民が集う「アサカツ」の中心的存在でもある。51歳。

(福留梓)